

おのきた

尾北校長室から

第36号



「今」を生きる ~ 2つのタイプ

立秋も過ぎ、暦の上ではもう秋。9月を前に、多くの高校では“Back-to-School Season”となった。学校生活を再起動するに当たり、一人一人新たな気持ちで頑張ってもらいたい。



さて、人はある場面での行動で、大きく2つのタイプに分けられるという。誰かの話を聴いて「ああ、そうですか…」と**それで終わる人**と、「へえ、そうなんだ！」と何かを**それから始めようとする人**の2つのタイプ——皆さんはどちらに入るだろうか？ 北高生には、自分もやってみようとか何かを「始めようとする」積極的な人であってほしいと思う。

人をこの2つに分けるものは、話を聴く人の「『今』を大切に**する**」という思いの強さにもあるのではないと思う。皆さんの夢の実現を、その根底で支えているのは「学力」である。そしてその学力を最大限に伸ばすため、私たち先生は、「良い授業」をする努力をしている。皆さんも自らの学力を伸ばすため、一つ一つの授業の時間を大切に**してもらいたい**。学力は、授業をする先生と受ける生徒との協働作業の結果として、皆さんの中に貯まってゆくものだからである。

「今」を大切に**する**ために、一つアドバイスをしたい。授業や講演会など人の話を聴く際に、疑問に思ったこと、印象に残った言葉などをメモして**書き残す**ようにするとよい。余白にメモしたり、自分で話の内容をまとめたりキーワードを探したりすることは、聴いた内容を後で活かそうとする行動であり、皆さんに期待される「積極性」や「創造力」の**源**となっていくものとなる。メモをとることは、単に記憶に深く刻まれる点で記憶力向上に繋がるだけではなく、何かに取り組む際には、思考の素として重要なヒントにもなっていくものである。

ここで日常を少し振り返ってみよう。「**生きる**」ということを私たちは、普段はあまり考えることはない。「今日という一日」は、何気なく生きている人にとっては**当たり前のこと**と思いがちである。しかし、命にはすべからず限りがあり、昨日それを手放した人にとってはどうしてもほしいと願った、**かけがえのない**一日であったかもしれない。影というものが強い光のもとで一層際立つものとなるように、私たちは**人生にもまた終わりがあることに時に意識を向ける**ことで、「**今**、この時」が一層輝きを増してくるようになるのではないか？

私たちが「ここにいる」ことは、**当たり前のこと**ではない。宇宙にあるものと同じ物質でできている私たちが、この地球の上で「**生きている**」ことの不思議さを思う。そして「何か」に感謝したくなる。皆さんも時に立ち止まり、**今**が二度とこない、かけがえのない時間だということを思い浮かべてみてほしい。**一生懸命の「小さな今」**を積み重ねること、そのことこそが「**今**を大切に生きる」ことになるのではないかと思うのである。



Today is the first day of the rest of my life.

(**今日**という日は、残りの人生の**最初の日**)